

山麓探偵団通信

11-12月号

今年の探偵団活動は、すべて晴天に恵まれ、延期も中止もない企画画が催行となりました。さて、ふりかえってみましょう。

【活動記録】

・二月十二日(木)

青空レストラン(芙蓉台)

・三月十二日(木)

須山御胎内からスノウシュー

・四月十六日(木)

御坂山系 釈伽岳

・六月二十五日(木)

昆虫シリーズ忍野調整池周囲

・九月十二日(土)

奥丹沢の滝一泊野宿

・十月二十九日(木)

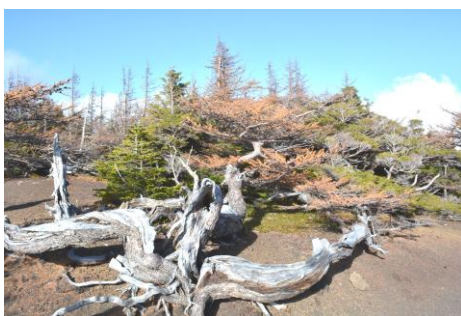
鳴沢林道と富士山奥庭

年内にもう一回の企画をと考えておりましたが、うまく日程の調整ができず来春に見送りました。

さて今回は、伊藤浩美団長の提案で、六年ぶりに発生した富士山オビババヤスデを見に、鳴沢林道へ出かけ、六年周期の発生理由、抱卵の仕方を説明していただきました。

ヤスデとムカデの違い、第一脚

を歩行に使わない理由など、ふだん滅多に目にしない土壌生物の生態の一部を目にし、おどろくことばかりでした。車輪に轆かれて、道路に白く残る死骸の所以を、まさか人間どもに説明してもらえらるとは、当のヤスデは思いもしなかったにちがいません。



カツラの香ばしい匂いに誘われ、ミズナラやブナの植林地を歩き、火口列の下、いくつかの小洞穴をのぞき、精進登山道へと抜けまし

た。その後、天候の回復とともに、富士山4・5合目の奥庭へと向かいました。

ハクサンシヤクナゲ、コケモモ、コメツガ、風衝木(ふうしようぼく)といって、一定の方向だけの風を受ける樹木の、独特の枝のつき方をする木の間から、見慣れない富士山頂の形を見上げ、「あれは何の山?」と、首を傾げた参加者もいました。

富士山の斜面の勾配は、噴石物が偏西風の影響を受けたために、なだらかであったり、急であったりと、場所によって違いがあり、解説によって、今回はじめてそれが顕著にわかりました。

■伊藤浩美団長の講評

天候が心配でしたが、運よく二か所を歩きました。紅葉そのものはピークを過ぎていましたが、ほかに面白いものがいくつか、あったと思います。

◆参加者の感想

N・樹海歩きが楽しかったです。
M・オビババヤスデが可愛らしかったです。

K・久々に参加して楽しかった。

N・奥庭から見える富士山についての解説で、よくわかりました。

T・はじめての奥庭に感動した。
S・奥庭からの富士山の稜線が素晴らしかった。

k・こんなに大きな富士山を見たのははじめてでした。

H・ヤスデを抵抗なく手のひらに載せたのいい体験でした。樹海歩き、カツラの香りが印象的。

A・久々の五合目歩きがよかった。

N・樹海のヤブコギが楽しかった。

🌸 第243回「探偵団活動」案内

次回は来年の二月六日(土)、アルピニストの戸高雅史氏を団長に、日帰り活動を予定しています。

行先の詳細は、一月中旬にハガキにてお知らせしますので、今うちにて日程調整をお願いします。

また、恒例の青空レストランは、雪の状況を確認次第、企画をたて、お知らせいたしますので、どうかみなさん、雪乞いをお願いします。◎では、一年間、ありがとうございます。よいお年をお迎えください。

発行 山麓探偵団 事務局

山梨県山中湖村平野一六九八

電話 〇五五五・六五・七〇二三